

国 語

1 科目構成

改 訂		現 行	
科 目 名	標 準 単 位 数	科 目 名	標 準 単 位 数
国 語 総 合	4	国 語 表 現 I	2
国 語 表 現	3	国 語 表 現 II	2
現 代 文 A	2	国 語 総 合	4
現 代 文 B	4	現 代 文	4
古 典 A	2	古 典	4
古 典 B	4	古 典 講 読	2

現行では、必履修科目として「国語表現Ⅰ」及び「国語総合」のいずれかを選択履修することとしているが、今回の改訂においては、「国語総合」が共通必履修科目となった。

また、各科目の履修に当たっては、原則として、「国語総合」を履修した後に、他の選択科目を履修することとされている。

2 改訂の基本方針

今回の改訂では、「言語の教育としての立場を一層重視し、国語に対する関心を高め、国語を尊重する態度を育てるとともに、実生活で生きてはたらき、各教科等の学習の基本ともなる国語の能力を身に付けること、我が国の言語文化を享受し継承・発展させる態度を育てることに重点を置いて内容の改善を図る。」という、中央教育審議会の答申に示された基本的な考え方に立ち、主に、言語活動を充実すること、古典に関する指導を充実することの改善が図られた。

○ 言語活動の充実

現行でも、実践的な指導が充実されるよう具体的な言語活動が例示されていたが、言語に関する能力を育成する中核を担う教科として、各教科・科目等における言語活動の充実に資するため、「内容」が再構成された。現行で「内容の取扱い」に示されていた言語活動例が「内容」の(2)として位置付けられ、内容の指導に当たり、各科目の「内容」の(1)に示された指導事項を、(2)に示された言語活動例を通して指導することが一層明確にされた。

○ 言語文化に関する指導の重視

「国語総合」に、新たに〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項〕が設けられるとともに、我が国の伝統と文化、とりわけ言語文化に対する理解を深めることを主なねらいとする「現代文A」、「古典A」が設けられた。

3 改訂の内容

(1) 目標

国語科の目標は、次のとおりである。

国語を適切に表現し的確に理解する能力を育成し、伝え合う力を高めるとともに、思考力や想像力を伸ばし、心情を豊かにし、言語感覚を磨き、言語文化に対する関心を深め、国語を尊重してその向上を図る態度を育てる。

教科の基本的な理念は継承されており、小学校及び中学校との系統性を重視して、想像力を伸ばすことについての記述が新たに加わったほかは、現行と同じである。

(2) 各科目

<国語総合>

ア 目標

国語を適切に表現し的確に理解する能力を育成し、伝え合う力を高めるとともに、思考力や想像力を伸ばし、心情を豊かにし、言語感覚を磨き、言語文化に対する関心を深め、国語を尊重してその向上を図る態度を育てる。

イ 内容の構成と取扱い

選択科目や他の教科・科目等の学習の基本、言語活動の充実に資する国語の能力、社会人として生活するために必要な国語の能力の基礎を確実に身に付けることをねらいとし、教科の目標を全面的に受けた、すべての生徒に履修させる共通必修科目である。小学校及び中学校との系統性を踏まえ、総合的な言語能力を育成する科目として、「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」及び〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項〕の3領域1事項で構成されている。

表現する能力を育てることを引き続き重視し、話すこと・聞くことを主とする指導に15～25単位時間程度、書くことを主とする指導に30～40単位時間程度を配当している。また、学習の過程を一層明確にするため、例えば「書くこと」では、取材、構成、記述、推敲、交流こうという、書く過程に沿った指導事項が示されている。

読むことの指導では、古典の教材として、古典に関する近代以降の文章を含めることが明示され、また、〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項〕では、現行の〔言語事項〕に加え、我が国の文化と外国の文化との関係に気付き、伝統的な言語文化への興味・関心を広げることが示されている。

<国語表現>

ア 目標

国語で適切かつ効果的に表現する能力を育成し、伝え合う力を高めるとともに、思考力や想像力を伸ばし、言語感覚を磨き、進んで表現することによって国語の向上や社会生活の充実を図る態度を育てる。

イ 内容の構成と取扱い

現行「国語表現Ⅰ」及び「国語表現Ⅱ」の内容を再構成した選択科目である。

「国語総合」の「話すこと・聞くこと」、「書くこと」と〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項〕とを中心として、その内容を発展させており、生徒の実態等に応じて、話すこと・聞くこと又は書くことのいずれかに重点を置いて指導することができる。

＜現代文A＞

ア 目標

近代以降の様々な文章を読むことによって、我が国の言語文化に対する理解を深め、生涯にわたって読書に親しみ、国語の向上や社会生活の充実を図る態度を育てる。

イ 内容の構成と取扱い

近代以降の文章を対象とする、新たに置かれた選択科目である。

「国語総合」の「読むこと」の近代以降の文章の分野と〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項〕とを中心として、その内容を発展させている。「古典A」と対をなす科目であり、指導事項として、課題を設定し探究することが新たに加わった。

＜現代文B＞

ア 目標

近代以降の様々な文章を的確に理解し、適切に表現する能力を高めるとともに、ものの見方、感じ方、考え方を深め、進んで読書することによって、国語の向上を図り人生を豊かにする態度を育てる。

イ 内容の構成と取扱い

現行「現代文」の内容を改善し、「国語総合」の総合的な言語能力を育成する科目としての性格を発展させた選択科目である。

近代以降の文章を的確に理解する能力を高めることとともに、適切に表現する能力を高めることが新たに目標に明示された。教材として、論理的な文章や文学的な文章に加え、現代の社会生活で必要となる実用的な文章も取り上げることとしている。

＜古典A＞

ア 目標

古典としての古文と漢文、古典に関連する文章を読むことによって、我が国の伝統と文化に対する理解を深め、生涯にわたって古典に親しむ態度を育てる。

イ 内容の構成と取扱い

文化の基盤としての古典の重要性を踏まえ、現行「古典講読」の内容を改善し、「国語総合」の「読むこと」の古典の分野と〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項〕とを中心として、その内容を発展させている。「現代文A」と対をなす科目として置かれた選択科目であり、指導事項として、課題を設定し探究することが新たに加わった。また、指導に当たっては、古文と漢文の両方又はいずれか一方を取り上げることができる。

＜古典B＞

ア 目標

古典としての古文と漢文を読む能力を養うとともに、ものの見方、感じ方、考え方を広くし、古典についての理解や関心を深めることによって人生を豊かにする態度を育てる。

イ 内容の構成と取扱い

現行「古典」の内容を改善した選択科目である。

「国語総合」の「読むこと」の古典の分野と〔伝統的な言語文化と国語の特質に関

する事項]とを中心として、その内容を発展させており、指導に当たっては、古文及び漢文のどちらか一方に偏らないようにし、両方を取り上げるものとしている。

◇ なお、「国語総合」の領域等と、各選択科目の指導事項との関係をまとめると、次の表のようになる。

		話すこと・ 聞くこと	書くこと	読むこと	伝統的な言語文化と国語 の特質に関する事項
必履修科目	国語総合	◎	◎	◎	◎
選択科目	国語表現	◎	◎		○
	現代文A			○	◎
	現代文B	○	○	◎	○
	古典A			○	◎
	古典B			◎	○

(各科目における◎は、より指導の中心となるものを示す)

4 質疑応答

問1 今回の改訂においてA、B科目を置いたのはどのようなねらいがあるのか。

国語科の科目は、現行学習指導要領と同様に、6科目から構成されることとなったが、生徒の多様性に対応するとともに、言語文化についての指導を重視するため、現代文に関する科目と古典に関する科目が、それぞれ2科目となった。

A科目とB科目では、科目の性格や特色が異なり、A科目は言語文化の理解を中心的なねらいとし、B科目は読む能力を育成することを中心的なねらいとしている。したがって、「国語総合」を基盤として、その上に深化、発展させている内容が異なるのであり、A科目が易しくて、B科目が難しいということではなく、また、順序性が示されているわけでもない。

問2 言語活動の充実を図る上で、どのような点に配慮することが大切か。

現行学習指導要領においても実践的な指導の充実が図られるよう具体的な言語活動例が示されており、社会人として、また、各教科等における学習に必要な能力を身に付けるため、討論、説明、創作、批評、編集などの言語活動を充実させることが大切である。

各科目の「内容」の(2)に示されている言語活動例は、中学校修了までに指導されているものであり、例として示されているものであることから、すべての活動を行わなければならないということではない。また、これら以外の言語活動を取り上げてよい。

問3 言語文化に関する指導では、どのようなことを充実させることが大切か。

言語文化とは、我が国の歴史の中で創造され、継承されてきた文化としての言語、文化的な言語生活、多様な言語芸術や芸能などを幅広く指している。

我が国の伝統と文化に関する教育を充実するため、今回の改訂では、小・中学校においても〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項〕が設けられ、高等学校はこれを踏まえ、言語文化に対する関心を深める必要がある。現行「古典」で示されている古典の教材に関する留意事項が「国語総合」で示されているのも、この趣旨を踏まえてのものであり、国語科においては古典に関する指導の一層の充実を図ることが大切である。